



春の全国交通安全運動

連続メールマガジン 第2号

子供を始めとする歩行者の安全の確保

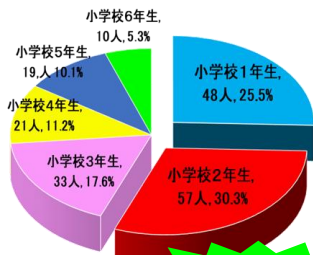
明日、4月8日（水）は、学校の始業日です。

あわせて安全運動重点の一つ「子供を始めとする歩行者の安全の確保」を呼び掛ける日としています。

昨年4月には東京の東池袋で高齢運転者が車を暴走させて、多数の歩行者をはね、幼い子供とその母親が亡くなられた交通事故は未だ多くの人の記憶に残っているものと思います。

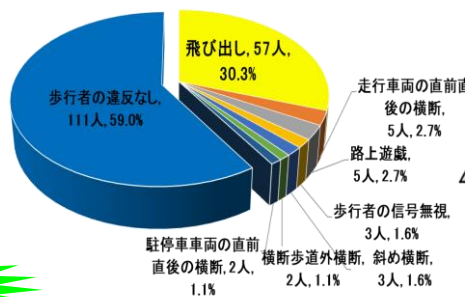
子供だけでなく、すべての人が安心して町を歩ける交通環境を作るために、道路を利用される皆さんで交通安全の意識を高めていきましょう。

歩行中児童の学年別負傷者数



低学年の割合が約6割！

歩行中児童の違反別負傷者数



過去5年、県内の小学生の歩行中の交通事故は低学年の割合が高くなっています。その特徴として、行動別では登下校中、原因別では飛び出しが最も多くなっています。

保護者の方は、普段から交通ルールを守り、子供に手本を示しましょう。また通学路と一緒に歩いてみて「子供の目線」で危険な箇所を教えてあげましょう！

交通事故ご遺族からのメッセージ

平成31年4月19日、東京都豊島区東池袋における高齢運転者による交通事故で、妻の真菜さん、長女の莉子さんを亡くされた松永さんからのメッセージです。

最愛の妻と娘を同時に失ってから今日まで、なぜこのようなことになってしまったのか訳が分からず、いまだ妻と娘の死と向き合うことが出来ません。当たり前のように一緒に生きていけると思っていた大切な2人を失い、失意の底にいます。

必死に生きていた若い女性と、たった3年しか生きられなかった命があったんだということを現実的に感じてほしいです。

現実的に感じていただければ、運転に不安があることを自覚した上での運転や飲酒運転、あおり運転、運転中の携帯電話の使用などの危険運転をしそうになったときに、亡くなった2人を思い出し、思いとどまってくれるかもしれない。そうすれば、亡くならなくていい人が亡くならずにすむかもしれないと思ったのです。

それぞれのご家庭で事情があることは重々承知しておりますが、少しでも運転に不安がある人は車を運転しないという選択肢を考えてほしい。また、周囲の方々も本人に働きかけてほしい。家族の中に運転に不安がある方がいるならば、今一度家族内で考えてほしい。それが世の中に広がれば、交通事故による犠牲者を減らせるかもしれない。そうすれば、妻と娘も少しは浮かばれるのではないかと思います。